

2011年日本平和大会 in 沖縄への参加ととりくみの呼びかけ

2011年5月26日 2011年日本平和大会実行委員会

全国の平和を愛するみなさん

平和を守る多彩な要求で学び交流し、世界と日本の平和を脅かす米軍基地と日米軍事同盟に反対し、憲法の輝く平和な日本をめざす日本平和大会が、今年は11月24日から27日にかけて沖縄で開かれます(国際シンポジウムは24、25日)。

米軍基地の重圧に苦しみつづける沖縄では、この間の県民のたたかいで名護市辺野古への新米軍基地建設反対、普天間基地撤去を県民の総意とする状況をつくりだし、日米政府に立ちまわっています。また、東村高江に米軍ヘリパッドを力づくで押しつけようとするたくらみにも、粘り強いたたかいがくりひろげられています。新「防衛大綱」にもとづく沖縄・南西諸島での自衛隊増強の動きにも、これに反対し、憲法9条にもとづく平和外交で周辺の国々との友好を求める県民世論が広がっています。この日本の進路を問うたたかいの広がる沖縄での平和大会に、全国津々浦々から運動を持ち寄り、海外代表とも交流しながら、沖縄と固く結びあい運動を大きく発展させようではありませんか。

いま、3月に起きた未曾有の東日本大震災と、「安全神話」にもとづく原発推進政策のもたらした福島原発事故の深刻な被害の中で、広範な人々がこれからの日本の進路を真剣に考え、模索しています。このなかで、本当に1人1人の命が大切にされ、みんなが安心して暮らせる平和な社会、憲法の掲げる「平和のうちに生存する権利」の実現が、政治に鋭く問われています。ところが日米軍事同盟を絶対視する菅政権や自民党などは、この事態を日米軍事同盟強化や憲法改悪に利用しようとする動きを強めています。

それだけにいま、被災者救援・復興のとりくみと結びながら、「米軍への『思いやり予算』をはじめ、軍事費を削って被災者救援・復興や防災にまわせ」、「首都圏3000万人を放射能被害の危険にさらす横須賀の原子力空母は撤去せよ」、「住民に深刻な被害をもたらし続ける、沖縄など全国の米軍基地を撤去すべき」、「自衛隊が米軍と一体となって周辺地域を威嚇し、海外派兵体制を強めて憲法改悪をめざす、新『防衛計画の大綱』路線推進はやめるべき」、「日米安保条約を廃棄して、憲法にもとづく平和外交をすすめアジアの国々と平和・互恵の関係をつくろう」——などの世論を、職場・地域・学園から広げることが求められています。

今年9月8日は、沖縄の米軍占領状態を継続し、日本をアメリカの軍事同盟に組み入れた、サンフランシスコ条約と旧日米安保条約の調印から60年目にあたります。この「安保調印60年」の節目の年に、切実な要求での共同の輪を広げながら、これと結び日米安保条約廃棄の世論を広げましょう。その運動を日本平和大会・沖縄にもち寄り、新しい平和の扉を開きましょう。